OCHADAI GAZETTE

お茶の水女子大学学報　第250号　2016年11月12日

OCHADAI GAZETTE Autumn, 2016

写真：西川 ちさと（写真部）

若き女性研究者たちの夢の実現に向けて

CONTENTS

TOPICS

学長からのメッセージ…… 1-2
若い女性研究者たちの夢の実現に向けて
― 本学名誉教授（故）林太郎先生のお心に支えられて

学生のアクティビティ…… 3-4

教員紹介…… 5
● 中久保　豊彦先生
（基幹研究院自然科学系）

卒業生紹介 …… 6
● 薄田 仁美さん
（文教育学部言語文化学科卒業）

附属学校園からのお知らせ…… 7-8

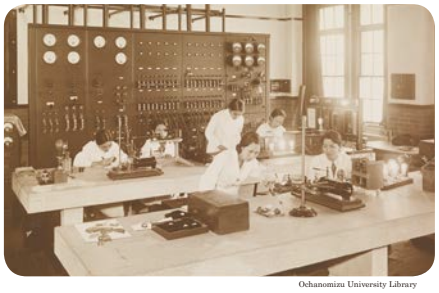
キャンパス点描…… 9-10
● 学部オープンキャンパス2016を開催しました
● お茶の水女子大学と筑波大学が大学間連携協定を締結しました
● 新型AO入試「新フンボルト入試」プレゼミナールを開催しました

お茶の水女子大学
Ochanomizu University

学長からのメッセージ

若い女性研究者たちの夢の実現に向けて ―― 本学名誉教授（故）林太郎先生の

Ochanomizu University Library
林 太郎先生



Ochanomizu University Library

Ochanomizu University Library

これまで様々な機会に、お茶の水女子大学が創立以来 140 年余にわたって、多様な領域で活躍する女性たちを育てて来たこと、そして本学から巣立った人たちが、人々の幸せを願い、教育と学術研究の推進のために、国の内外で貢献していることをお話して来ました。その中で、優れた教育者の育成と並んで、女性研究者の育成も、本学の大きなミッションのひとつであったこと、「日本初の」と冠がつく多くの研究者が本学の優れた先輩たちであることもお話して来ました。今、社会では「女性研究者支援」が声高く謳われ、国からの支援事業も数多く用意されています。しかし、本学における女性研究者支援は、大きな予算が用意されていたわけではありませんが、東京女子高等師範学校の時代から 100 年近くにわたって実施されて来ました。

今回は、本学の名誉教授の故・林太郎先生が、今から 33 年も前の 1983 年から 30 年にわたって、多くの若い女性研究者たちを励まし、支援して来られた素晴らしい事業があったことをご紹介します。その事業によって、日本中の若手女性研究者たちが助けられ、実績を挙げて、夢を実現してきたことを、本学に在籍する皆さんには、是非、知っておいて頂きたいと思います。

わが国の女性研究者の現状

わが国の女性研究者の割合は、内閣府「男女共同参画白書 2015 年度版」によると、年々緩やかに増加してはいるものの、2002 年に 7.9%であったものが、2014 年 3 月 31 日現在も僅か 14.6%と、きわめて低い値にとどまっています。この数値は諸外国と比べてかなり低く、白書に挙げられているOECD諸国 29 か国中最下位です。女性研究者の割合が高い上位5カ国は、ポルトガル 45.0%、エストニア 44.0%、スロバキア 42.7%、スペイン 38.8%、ポーランド 38.3%ですが、科学技術や学術研究の発展を先導してきた英国（6 位、37.8%）、米国（15 位、33.6%）、ドイツ（24 位、26.8%）、フランス（25 位、25.6%）における女性研究者の割合が思うほどは高くないことも意外な事実です。でも、日本における割合の低さは、群を抜いていると言って良いでしょう。女性研究者の場合には、実績を挙げなくてはならない時期と出産・育児などの人生のイベントが重なることが多いことから、男性よりも研究業績が少ないことや、研究費の獲得も難しく、上位職への登用もなかなか進まないという傾向にあります。

『2020 年 30%』の目標

2003 年 6 月 20 日に「社会のあらゆる分野において、2020 年までに、指導的地位に女性が占める割合が、少なくとも 30%程度になるよう期待する」という目標（『2020 年 30%』の目標）が、男女共同参画推進本部で決定され、その後、この目標達成に向けた様々な施策が進められてきました。私自身も、男女共同参画会議基本問題専門調査会の委員の一人として、男女がともに個性と能力を十分に発揮できる活力ある社会の構築に向けて女性の多様な能力を活かせるよう、その決定に先立つ 2003 年 4 月に、様々な分野へのチャレンジ支援策についての提言「女性のチャレンジ支援について～レッツチャレンジ！ 2003 アピール」の取りまとめと発出に関わりました。その中では、多様な分野における現状分析や阻害要因の検討を行って、それぞれに共通する事項や、個別分野ごとに必要な支援策について方向性をまとめましたが、重点分野のひとつとして「女性研究者のチャレンジ支援」を挙げています。

研究分野における女性のチャレンジ支援策

チャレンジ支援策では、研究分野において、特に以下の点が期待・奨励されています

① 意欲と能力がある女性研究者が活躍できるよう、政府の審議会等における具体的かつ実効性のある支援策が提言されること

② 国公私立のみならず民間も含めた研究機関が組織としての目標と具体的計画を自主的に策定して、進捗状況のフォローアップと公表に努めること

③ 国において優れた事例を紹介するとともに必要な統計調査に協力すること

そして、第2次男女共同参画基本計画（2005 年）及び第3期科学技術基本計画（2006 年）に女性研究者の採用目標値が明記され、「女性の参画加速プログラム」（2008 年）でも女性研究者支援が重点的に取り組む分野として取り上げられました。

このように、2006 年から国の女性研究者支援事業が始まり、これまでの 10 年間に、文部科学省でも「女性研究者支援モデル育成」「女性研究者研究活動支援事業」「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ」などの事業によって、女性研究者支援が進められています。

国が女性研究者の支援事業を開始したこと自体は、嬉しいことではありますが、その事業が開始される 23 年も前の 1983 年に、本学名誉教授でいらっしゃる故・林太郎先生が、女性科学者・教育者を育てようと基金を創設されたこと、そして、その基金によって 30 年にわたって多くの女性たちが力づけられ、それぞれの夢に向かって進むことが出来たことを、皆さんにご紹介します。上にも述べましたが、この基金によって励まされ、優れた業績を挙げてきた研究者は数多く、私自身も、林先生のお心に支えられて、研究と教育を続けてきた一人です。最近、林先生の尊いお志が本学の中でもあまり知られていないことを知り、まことに残念だと思いました。是非、皆さんに知って頂き、林先生のお心を、今後に活かして行くべく、努力したいものと思います。

お心に支えられて

Ochanomizu University Library

公益信託 林女性自然科学者研究助成基金

既に2年半が過ぎましたが、2014年3月8日に「公益信託 林女性自然科学者研究助成基金」の終了記念会が開かれました。その際に私は、初期の受給者であったことから、延べ654名の受給者の代表としてご挨拶をさせて頂きました。

この基金は、林太郎先生（1903-1988）が、1979年に愛子夫人が逝去された際に、先生を支え続けた愛子夫人への感謝の想いを、ご自身が生涯を掛けて来られたお茶の水女子大学の理系女性研究者の育成のために、その研究支援という形で表したいと考えられて、私財を投じて1983年に創設されたものです。最初は毎年2名の女性研究者に授与される形で進められましたが、1988年12月23日に林先生が不慮の事故で亡くなられた後に、先生のご遺志で、東京のご自宅を売却された多額のご遺産をさらにこの基金にご寄附頂くことなりました。そして林基金は、1990年から、本学関係者のみならず、日本中の数多くの女性自然科学者がそれぞれの夢を叶えるための、大きな支えとなってきたのです。林基金によって励まされた女性研究者は旧体制での7年間に14名、新体制になってからの23年間で延べ640名に及びます。私自身も、林基金のご支援を頂くことができたお蔭もあって、30代の頃から、小さな研究室で学生達と一緒に、独自性の高い研究を遂行して来ることができました。

私が林太郎先生と最初にお目に掛かったのは、1988年度の研究助成基金を授与頂いた折でした。残念ながら、私がお茶の水女子大学に入学する3年前に、既に林先生はご退官していらっしゃったので、林先生のご高名は存じ上げていたものの、直接にお教えを頂くことはありませんでした。学生時代にお教えを受けた大槻虎男先生（故人、お茶の水女子大学名誉教授）にご推薦頂いて、85歳になられていた林先生と授与式で初めてお会いしました。その際に、とてもお元気な先生から、「あなたの研究は、将来性がある優れたものと思います。これからも研究を続けて、実績を挙げて下さい。この助成金が、あなたの研究の発展のために少しでも役に立てば、とても嬉しく思います」と仰って頂きました。授賞式には、大槻先生をはじめ、前田候子先生、瀬野信子先生といったお茶の水女子大学関係の先生方のほかに、井口洋夫先生や林四郎先生など、高名な先生方がご出席下さって、皆様から温かい励ましのお言葉を頂きました。その間、緊張しつつ、これからも一層頑張って、世のため人のために役立つ研究をしようと言う気持ちになったことを覚えています。その際に、林先生のご趣味が絵をお描きになることと伺い、先生が挿絵も描かれたご著書も頂きました。

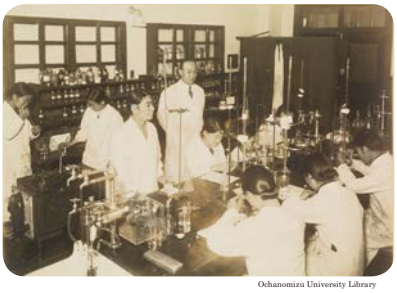
そんな楽しく嬉しい授与式で、またの御目文字をお約束してお別れしましたが、丁度それから1週間後に、林先生が熱海の海岸に写生に出かけられた際に、不慮の自動車事故で亡くなられたとの連絡が入りました。初めて先生にお会いして、そのお人柄に触れ、これから沢山のことをお教えいただこうと考えていましたが、授与式が最初で最後のお目に掛かる機会になってしまったことは、とても悲しく心残りなことでした。ご葬儀には多くのご友人やお弟子さんたちが参列されていて、皆さんが林先生の女子教育への熱いお気持ちについて話されていました。

私はその後、基金の運営委員も務めさせて頂き、長年にわたって、この素晴らしい女性研究者の支援事業に参加させて頂きました。私の教え子の何人かも、林基金のご支援を頂いて、研究を発展させ、現在、大学や民間の研究機関で活躍しています。

33年も前に、林先生が女性科学者・教育者を育てようと、基金を創設された慧眼には、尊敬の念を禁じ得ません。林先生のお心に支えられて、研究と教育に従事してきた女性研究者の一人として、先生への感謝の気持ちを忘れず、その想いを次代につなげて行きたいと、強く思っています。

若い学生さんたちにも、林太郎先生をはじめとする素晴らしい先生方や先輩方が、皆さんを励まし支援して下さっていることを知って頂きたいと思います。皆さんがお受けになる奨学金の中にも、そういった方々の尊いお気持ちが込められているものがあります。感謝の気持ちを忘れずに、それぞれの夢の実現に向かって努力して頂くことを、心から願います。

2016年11月
学長　室伏 きみ子



Ochanomizu University Library

Ochanomizu University Library

Ochanomizu University Library

学長からのメッセージ

学生のアクティビティ

"Bon Voyage!"

ボン・ボヤージュ！（良い旅を！）

11月12日、13日に開催されるお茶の水女子大学学園祭「徽音祭（きいんさい）」！
代表航海士のお二人に今年の徽音祭（たび）についてお話を伺ってきました!!

大変だったこと

瀬　想定していなかった雨が降ってきたことです。頑張って作った装飾品を雨から守ることが大変でした。

松　徽音祭当日は仕事がたくさんあり、常に校内を走り回っています！

実行委員のやりがい

瀬　装飾やパンフレットなどの形に残るものが完成した時は嬉しいです。さらにそれが来場者の皆さんの手や目に触れることはもっと嬉しいです。

松　学園祭グランプリの順位で、自分たちの頑張りが評価されるのは嬉しいです。

嬉しかったこと

瀬　テレビやインターネット記事とのタイアップが増えたことです。徽音祭の影響が大きくなった実感がわきました！

松　およそ１００キャンパスで競われる学園祭グランプリで上位に入賞したことです。３位、２位と順位を伸ばしているので、今年は１位を取りたいです！

実行委員をはじめたきっかけは？

瀬　高校生の時に初めて来た時から実行委員として携わりたいと思っていました！

松　昔から文化祭を創るのがだいすきで、大学でも文化祭、学園祭を創りたい！ と思って入りました！ 徽音祭実行委員会に入ることは入学する前から決めてました！

実行委員長：瀬戸彩加
生活科学部食物栄養学科３年

きいちゃんファイル

3学部全学科・コース・講座モチーフの
きいちゃんクリアファイル

徽音祭限定販売!
ぜひゲットしてね!
税込み100円

学園祭グランプリ

それぞれの大学の学園祭がSNS投票や動画再生回数で競っています。ここでしか見れない動画もあるので是非見てみてください。

Youtube 動画▶ https://www.youtube.com/watch?v=06Xuavl_aSc

学園祭キャラクターグランプリ

徽音祭からは「きいちゃん」がエントリーしています。
1日1票の投票お願いします!

投票サイト▶ http://c.student.mynavi.jp/cpf/stu_006/photos/detail/31/page:4

詳細は きいんさい 検索

実行委員を続けてきた思い

瀬 1年生の時に、学園祭で改善したいと思うところを見つけました。2年生の時にさらによりよくしたいと思う点を見つけました。

松 1年生の時から続けようと決めていました。責任は大きいけれど一番大きく携わることができる3年生が一番楽しいです!

裏話

瀬 実は、実行委員が着ているはっぴ、幹部(3年生)は自分の名前が入れられるんです!

松 徽音祭は全てお茶大生が手がけています。テントを張ったり機材を運ぶのも私たちなんです!

副委員長:松島璃子
文教育学部人文科学科3年

おすすめイベント

瀬 今年はどのイベントも例年より充実しています!

松 水コン、お茶パラはもちろん、学術企画はお茶大での研究を知る機会にもなるのでぜひ受験生にも注目してほしいです。

来場者へひとこと

瀬 テーマ「Bon Voyage!」をもとに作成した装飾、充実した企画にも注目してください。お茶大での非日常空間に足を運んで楽しんでいってください!

松 お茶大に足を踏み入れるのは実はなかなかない機会です。パワフルなお茶大生を感じてください!

文責:大学院人間文化創成科学研究科博士前期課程1年　沖田 百世
理学部物理学科4年　金子 紗梨

学生のアクティビティ

教員紹介

今回は、基幹研究院自然科学系助教の中久保豊彦先生をご紹介します。中久保先生は、大学院では生活工学共同専攻、学部では生活科学部人間・環境科学科にご所属です。

循環型社会の形成を支援する環境モデリング技法

Nakakubo Toyohiko
中久保　豊彦

Q ご出身、ご経歴などについて教えて下さい

兵庫県三木市の出身です。近隣する神戸市北区や三田市はニュータウン開発が盛んな地域で、1995 年に起きた阪神・淡路大震災は住居移転に最後の拍車をかけました。そうした中で、都市の拡張や環境問題に関心を持ち、大阪大学工学部に進学、2 年次より環境工学コースに進みました。4 年次の研究室配属時に、環境システム学がご専門の盛岡通先生の研究室を選び、そこから 9 年間(学部で 1 年、大学院で 5 年、助教で 3 年)、環境マネジメント学研究室でお世話になりました。博士後期課程に進むタイミングで盛岡通先生が大阪大学をご退官され、その後は東海明宏先生に研究指導を受けました。助教着任後は東海先生とのプロジェクト研究・学生指導・学内用務に尽力しておりました。2015 年 4 月に、ご縁があってお茶の水女子大学に赴任させて頂きました。

Q ご専門の研究について教えて下さい

専門は環境システム学です。環境問題を扱う際、問題を構造化して、現況や対策実施の効果をどう定量的に扱えるようにするか、効果はどのような指標で測るべきか、という一連のフレームワークを考える必要があります。このフレームワークを構築するための手法は、環境モデリング技法として土木学会の環境システム委員会を中心に開発が行われてきました。環境モデリング技法の適用や開発を通して、循環型社会の形成に向けた環境インフラづくり、安全・安心社会の形成に向けた環境リスク管理を対象とした研究に取り組んでいます。

循環型社会に関連して取り組んでいる研究対象は、有機性廃棄物(食品廃棄物、下水汚泥など) の循環計画です。食品廃棄物に関し、食品加工業で発生する食品加工残さは飼料・肥料としての再利用が進んでいますが、事業所や家庭から出てくる台所ごみはほぼ全量がごみ焼却施設で焼却されています。台所ごみは現在、メタン発酵を用いたバイオガス回収など地域エネルギー計画と連動した形でのリサイクルの展開が模索されています。同様に、下水汚泥についても汚泥に含まれる有機分からのエネルギー回収に向けた取り組みが促進されています。有機性廃棄物は再生可能なエネルギー源として着目されていますが、含水率が高く取り扱いが困難なため、必ずしもエネルギー回収が地域にとって最適なリサイクル方法とは限らないところが、この分野の難しさです。地域特性の分析や環境性・経済性の評価を通して、どういう地域にはどういうリサイクルが適しているかを研究しています。

我が国の 3R(Reduce, Reuse, Recycle) は年々進化しており、技術やノウハウを海外に輸出するところまで来ています。しかしながら、広い視野で資源循環を考えると、大量廃棄・大量リサイクル社会の形成を目指すのではなく、どういう循環を形成すべきなのか、本質を模索することが求められます。循環の動脈側では、食品廃棄物の発生を抑制する社会構造の仕組みを考えないといけません。静脈側においては、省エネルギーや栄養塩類循環の視点から下水道インフラの仕組みや機能を再考する必要があります。循環型社会形成推進基本法が整備されたのは 2000 年であり、まだ十数年しか経過していません。資源循環分野において学問の側でやるべきことはたくさんあります。

Q お茶大の教員をされてどのような感想をお持ちですか?

赴任前は、女子大で学生さんにごみの研究をさせるのは難しいのではないか、と多くの方に言われました。本学に着任して 1 年半ですが、実感としては、特に抵抗なく学生さんは関心を持って研究に取り組んでくれています。「ごみは社会を映す鏡」という言葉があるように、資源循環は生活に密着した問題ですので、生活工学の観点から関心を持つのではないかと感じています。研究ゼミは大瀧雅寛先生と合同で運営させて頂いており、大瀧先生が環境衛生工学分野の研究環境を本学に築いてこられたことも、資源循環の研究を本学で円滑にスタートすることができた大きな要素です。

今年の 6 月には研究ゼミの一環で下水処理場の見学会を企画し、研究室総出で東京都の清瀬水再生センターや小平市の下水道館に伺いました。下水道館には実際に使われている下水管の中に入ることができる展示が地下 5 階にありますので、ぜひ訪ねてみて下さい。研究テーマに合わせて個別に施設見学や技術ヒアリングをする機会は設けているのですが、研究室全体での見学会も引き続き、企画していきたいと考えています。

文責：基幹研究院自然科学系教授
仲西 正

卒業生紹介

アフリカ 第134回IPU会議の様子

国政の中枢を担う誇り
～国民の代表を支える究極のサービス業～

Usuda Hitomi

薄田　仁美

衆議院参事

千葉県出身
2010年4月　お茶の水女子大学文教育学部言語文化学科入学
2011年8月～2012年1月　マンチェスター大学交換留学
2014年3月　お茶の水女子大学文教育学部言語文化学科
　　英語圏言語文化コース卒業
2014年4月　衆議院事務局入局
2014年4月～　国際部国際会議課IPU会議係
2016年7月～　委員部第七課農林水産委員会担当

衆議院事務局の職員になるまで

大学１年の頃から、国家公務員の仕事に興味があり、公務員試験の情報は集めていました。国際的な仕事にも興味があり、サークルはESSに所属して英語力を磨き、フランス語学習にも力を入れて仏検準２級も取得し、卒業間近にはスイスに短期留学もしました。

就職活動の際には、様々な官庁や民間企業を回り、日本の社会全体の為になるような仕事がしたいと考え始めました。最終的に衆議院事務局に決めたのは、国の様々な分野の仕事に携わることができると考えたからです。また衆議院事務局の中には、調査局という調査に特化した部門があり、大学での卒業研究の際に研究調査の楽しみを知ったこともあり、調査の仕事にも携わることができる点に惹かれて、2014年４月から衆議院事務局に就職することを決めました。

衆議院事務局に勤めて

衆議院事務局の仕事は大まかに３種類に分けられます。第１に国会の本会議と予算委員会などの会議の運営、第２に国会議員が必要とする情報を提供するための調査、第３に、対外関係を含む、衆議院の活動を補佐する部門（国際部等）です。入局するまでは、職務は受動的で補完的なものだと思っていました。しかし、実際に働いてみると、能動的で包括的なものだとわかりました。議員の補佐においては、国会や国際会議等について議員以上に多くの知識を持ち、それを適切に使う必要があるからです。

最初に配属になったのは国際部国際会議課で、中でもIPU(Inter-Parliamentary Union、列国議会同盟）という、スイスに本部を置く国際組織による会議の担当になりました。国際会議課では、衆議院議員が国際会議に参加する際のサポートと、衆議院として国際会議を主催することが主な仕事です。最初の頃の仕事は、国際会議での決議の英語版を日本語に翻訳することで、その後、次の国際会議で必要となる文書作成を行っていました。

１年目の2014年度には４つの国際会議を担当しました。１つの会議に約半年間かけて準備を行うのですが、必要となる英語文書の翻訳が膨大で、作成しなければならない文書も山ほどあり、その大変さが身に染みました。

２年目の2015年度５月にはIPU世界若手議員会議東京会合を主催しました。66カ国から189人の議員が参加し、フランス語のメールにも対応するなど、学生時代に学んだフランス語が大変役に立ち、国際政治におけるフランス語の重要性を再認識しました。

2015年度末には、それまで留守番をしていた国際会議に初めて出席できることになり、アフリカのザンビア・ルサカで開催された第134回IPU会議に参加しました。複数の予防接種を打つなど、出張準備にも時間がかかりました。ザンビアは想像していたよりも衛生的で、道路も整備されており、発展している国でした。紅茶が美味しく、現地の人々も小綺麗な服装をしており、植民地時代のイギリスの影響を強く感じました。外国議員が日本の議員と話す際の通訳、外国の議会職員との交渉、議員の発言の補佐や、２国間会談の設定と準備も行いました。病院等への議員の現地視察にも同行し、とても有意義な初めての海外出張となりました。

2016年度５月には第１回日韓議会未来対話という会議を東京で主催しました。この会議は前例がなく、様々な準備が手探りで、責任が重い業務を自分が任されたという点でも困難がありました。この会議は大きく報道され、反響が大きかったので、自分たちが作り上げたものが世に出ることの嬉しさを実感しました。会議では、今後の日韓の議会同士の交流を深めていこうという結論が出され、これからの日韓関係に寄与できるのではないかという期待を感じました。

会議以外では思い出深い出来事が２つあり、１つは国会の開会式に天皇陛下がご臨席された際、その式を傍聴できたことでした。衆参両議員の全員が集まり、圧巻でした。もう１つは、国会案内コンテストという衆議院職員が対象の行事です。これは年１回あり、職員が自分の視点を交えて国会案内をしました。通常業務で国会案内をしている職員も多い中、そうでない私も昨年このコンテストに英語で挑戦し、準優勝という結果をいただくことができました。国会に関する内容を英語でスピーチすることは想像以上に難しかったのですが、お茶大で人前で発表する力をつけたことで、この結果を出せたと思います。また、コンテストを通して、自分の職場をさらに好きになったように思います。

委員部農林水産委員会担当に異動して

2016年７月より、新たに委員部農林水産委員会担当の配属になりました。この担当では、農林水産委員会の運営全般を行い、委員会の時は委員長の横の机の席につき、議事進行の補佐を行います。農林水産委員会は、国会議員や政府が提出した法案の審査などを行いますが、それに関する公報や公文書等を起案し書類作成をすることが私の主な業務です。異動したばかりで仕事を日々覚えている段階ですが、今後の抱負としては、関連する法規（国会法、衆議院規則等）や先例（委員会先例集という、約500ページの本があります）をしっかりと勉強し、どのような場面においても委員会を円滑に運営できるようになりたいと考えています。

学生へのメッセージ

私は、仕事に行き詰まった時は国会議事堂の前を散歩します。議事堂の美しさとパワーを感じ、ここに就職したいと思った理由を思い出し、前向きになれるからです。みなさんは、どんな進路を選ぶべきか悩む事もあるでしょうし、その答えを見つけるのは難しいことです。でも、進んだ道で行き詰まった時に、「しっかり考えて今の道を選んだ」と思い出せれば救われます。そうなるよう、自分がどうなりたいかをたくさん考える事が大切だと思います。

私は、異動した今、国際会議課であらゆる困難を切り抜けた経験のおかげで、現在の仕事も落ち着いてこなせていることに気づきました。一見関係のないことでも、前の経験は次に関連していたのです。みなさんには、学生生活のときから、やりたいことを、一生懸命やってほしいと思います。

文責：基幹研究院人文科学系准教授
　　山腰 京子

わたしのオフタイム

ダンス歴約10年で、今はサルサ（男性がその場で動きを決める即興のペアダンス）を習っています。時々社交場で初対面の人と踊り、楽しんでいます。

附属学校園からのお知らせ
附属幼稚園便り

Ochanomizu University Library
創立当時の藤棚

Ochanomizu University Library
東京女子高等師範学校附属幼稚園絵はがき　藤棚の下で

創立 140 周年の節目の年に

今年は、幼稚園にとって、創立 140 周年の節目の年にあたります。11 月 26 日に予定されている創立記念の式典、祝賀会に向けて、140 年の歴史を振り返っているところです。

御茶ノ水（現在の湯島）に本学の前身・東京女子師範学校が開校した次の年、1876（明治 9）年に日本で最初の幼稚園として、本附属幼稚園は開園されました。関東大震災で御茶ノ水の園舎が焼失し、1932（昭和 7）年 12 月に本学とともに大塚に移転して、翌年から現園舎での生活を重ね、すでに 84 年の月日が経ちました。現園舎は、大学本館とともに、2008（平成 20）年、登録有形文化財として登録され、2014（平成 26）年には、移転当時の趣に復元する大規模復元改修工事が行われました。

移転当時主事（園長）を務められていた倉橋惣三先生の「大銀杏と藤棚」という文章に、引越してきた時の思いが書き留められています。

「大塚に本建築ができて移ってから、彼（倉橋自身のこと）は庭に意を用いたが、その間、何よりも彼の心を満たしたものは、丘の上の大銀杏を囲いの中に取り入れたことと、お茶の水の焼け跡に思いがけず新芽を出した藤を移し来って棚につくったことである。大銀杏と藤棚とは、お茶の水幼稚園の二つの大切な自然の魂である。」

140 周年の歴史を振り返るために、古い写真・資料を整理する中で、御茶ノ水に幼稚園があった時の藤棚の写真、この園舎に移ってきた当時の藤棚の写真も出てきました。

現在の園庭にある藤は、本園にとって、深い歴史的な意味をもつ大事な藤なのです。

昨年 9 月より、①園舎の維持管理　②園庭改修、樹木の維持管理などを掲げ、関係者の皆さまから「創立１４０周年記念募金」を募ってきました。その貴重なご芳志をつかわせていただいて、この大事な藤の手入れをすすめてきました。

2 月、老木となり大分弱っているように見受けられる藤を、著名な樹木医である塚本こなみさんに診断していただきました。「藤は、皮一枚になっても生き続ける生命力の強い木なので大丈夫です」とおっしゃって、伸び放題に伸び、複雑に絡まった蔓を迷うことなく剪定されました。「今年は、花を期待しないでくださいね」ということでしたが、今年の春、残された枝先に全て花芽がついて、数は少なくても見事な花が咲きました。

塚本さんのご助言もあり、この夏休みに藤棚を拡張する大掛かりな工事をおこないました。広がる枝や蔓の下に太い木の棒を井桁に組んで、井桁ごとク

藤の剪定　2 月

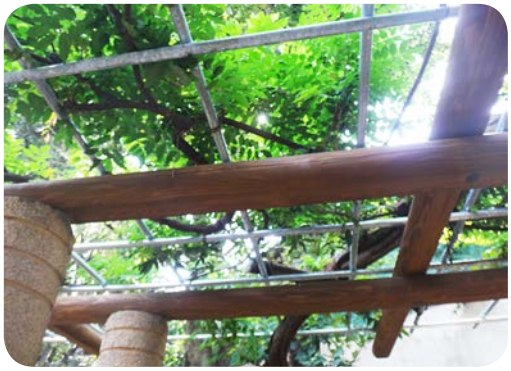
クレーンでつり上げられている藤棚

新しい藤棚

Ochanomizu University Library
昭和１０年新園舎藤棚

レーンでつり上げ、周りの木からロープで引っ張って、つり上げた状態で固定するという作業に丸一日かかりました。午後からは台風の影響で風も強まり、難航する作業の中で、藤の悲鳴が聞こえたような気がしました。新しく広がった棚に無事降ろされたのは、それから数日後でした。長い時間、無理な体勢を強いられていた藤がどうなるか心配されましたが、拡張された棚にすぐに勢いよく枝葉を伸ばしていきました。歴代の卒業生や関係者のみなさまのお志を、このような形で活かせたことを心よりうれしく思っています。

震災、戦争の惨禍をもくぐりぬけ、逞しく生き続けてきた藤は、これからも、この幼稚園の自然の魂として、幼稚園の歴史をずっと見守り続けてくれることでしょう。藤に負けないように、この先 10 年、20 年をみすえて、140 年の保育の歴史の中で本園が守り続けてきた子どもを中心においた保育の歩みを力強く着実に進めていこうと、思いを新たにしています。


新しい藤棚：下から見上げる

附属学校園での出来事（2016年7月～9月）

【いずみナーサリー】

7月
- 七夕
- 避難訓練（室内・地震）
- すいかわり

8月
- 避難訓練（不審者対応）
- 夏野菜収穫・調理
- 森のプール開設

9月
- 引き取り訓練
- お月見あそび

【附属幼稚園】

7月
- ５歳児遠足
- 誕生会
- 第１学期終業式
- ５歳児有志親子　チャボ・畑の世話
- 夜の附属幼稚園でセミの羽化を観察する会

8月
- ライフ×アート展参加

9月
- 第２学期始業式
- 生きもの博物館
- 避難訓練・引き取り訓練
- 学級懇談会
- PTA主催講演会

【附属小学校】

7月
- 保護者会
- 情報モラル講習会（5・6年、保護者）
- 芝生補植（5•6年、保護者ボランティア）
- 防犯教室、起震車体験、煙体験
- 終業式

8月
- 登校日（4・5・6年）
- 林間学校（5・6年）

9月
- 始業式
- 不審者対応訓練
- 保護者会
- たてわり給食
- 開校138周年
- 栄養教育実習
- 通学班別会

【附属中学校】

7月
- 第2回学力テスト（3年）
- 保護者会
- お茶の子バザー
- 志賀高原林間学校（2年）
- 夏休み開始

8月
- 夏休み終了

9月
- 第3回学力テスト（3年）
- 郊外園（2年）
- 保護者参観日
- 生徒祭

【附属高校】

7月
- SNSについての研修（1・2年）
- 農場実習（ジャガイモの収穫：2年）
- ジャパンソサエティよりジュニアフェロー受入れ
- 学力テスト（1・2年）
- 保護者会（1～3年）
- お茶大日本語サマープログラムの留学生　箏曲・茶道体験
- お茶大英語サマープログラム（1・2年生30名）
- 終業式
- Global Link Singapore（3年生4名）

8月
- 東工大サマーチャレンジ（3年生9名）
- イオン アジアユースリーダーズ（2年生5名）
- スーパーカミオカンデ＆iPS細胞研究所見学（3年生22名）
- 理数1日体験授業（中学生対象）
- 学力テスト（3年）

9月
- 始業式
- 第Ⅱ期教育実習
- ノーベル賞受賞者を囲むフォーラム（2年）
- 文化祭
- 第2回学校説明会
- 進路講演会（2年）

附属学校園からのお知らせ

キャンパス点描

学部オープンキャンパス 2016 を開催しました

2016 年 7 月 16 日（土）～ 18 日（月）の 3 日間、学部オープンキャンパスを開催しました。

学長挨拶

連日の猛暑の中、6,300 名を超える受験生や保護者の方々にご参加いただきました。

全体説明会では、室伏きみ子学長からお茶大の紹介と受験生へのメッセージ、続いて髙﨑みどり副学長から多様な入試制度、お茶の水女子大学の特徴的な教育プログラムである「複数プログラム選択履修制度」や「文理融合リベラルアーツ教育」、多岐にわたるグローバル教育、本学独自の奨学金、学生寮などについての説明がありました。その後、学部長による学部・学科の説明があり、皆さん熱心に耳を傾けていました。

徽音祭実行委員企画

全体説明会会場の様子

全体説明会後には、各学科・講座・コース別に、模擬授業や在学生による相談、研究室ツアーなど工夫を凝らしたプログラムが用意され、紺色の T シャツを着たアシスタント学生が大活躍。どのプログラムも大盛況で、参加者から活発な質問が飛び交っていました。

来年度も引き続きオープンキャンパスを実施いたします。開催時期が決まりましたら、大学ホームページでお知らせいたします。皆様のお越しをお待ちいたしております。

新型 AO 入試「新フンボルト入試」プレゼミナールを開催しました

お茶大では 2016 年度から「新フンボルト入試」という新しいタイプの AO 入試を導入します。この新フンボルト入試の第一次選考にあたるプレゼミナールを 2016 年 9 月 24 日（土）・25 日（日）の 2 日間にわたって開催し、受験生約 200 名を含む 500 名近い方々に参加していただきました。

このプレゼミナールは、受講者を AO 入試の受験生だけに限定するのではなく、広く高校 2・3 年生にも開放して行う点に大きな特徴のひとつがあり、受講生にお茶大の校風や大学という知的世界を実地に体感してもらえる機会を提供するものとなっています。

天候には恵まれませんでしたが、プレゼミナール 1 日目には文系諸分野から 5 つのセミナー、理系からは 9 つのセミナーを開講し、ご担当の先生方がそれぞれ入念な準備をして熱の入った授業を高校生に対して行ってくださいました。1 日目の受講者は約 360 名にのぼります。

2 日目は、受験生以外の高校 2・3 年生を対象とした図書館情報検索演習を午前と午後それぞれ開講し、また、理学部生物学科では大学院生による研究ポス

お茶の水女子大学と筑波大学が大学間連携協定を締結しました

2016年9月1日(木)、お茶の水女子大学と筑波大学は、大学間連携協定締結に伴う調印式を執り行いました。

調印式には、本学から室伏きみ子学長、髙﨑みどり理事・副学長(教育担当)、真島秀行副学長(学校教育支援・社会連携担当)、筑波大学から永田恭介学長、伊藤眞副学長(教育担当)、宮本信也理事・副学長(附属学校教育局教育長)が出席し、協定書調印の後、両学長から挨拶がありました。

調印式では、筑波大学の伊藤副学長から両大学の連携に関する概要説明があり、引き続いて、筑波大学の宮本理事・副学長から附属学校間連携の概要説明がありました。続いて、筑波大学の永田学長から「ジェンダー研究・教育や女性リーダーの育成について長い経験と高い実績があるお茶の水女子大学と協定を結ぶことは各方面で活躍する女性人材の輩出に繋がる。また、附属学校を含めた大学間の連携で将来を見据えたキャリア形成の充実が図られることを期待する」旨の挨拶がありました。続いて、本学の室伏学長から「大学改革を含む様々な教育課題の一つに、国立大学の附属学校の存在意義があるが、両大学の持つリソースの一層の活用を含めた先導的な取組を広く発信することで、新たな附属学校教育の開発・構築とわが国の初等・中等教育の向上・発展に繋げていきたい」旨の挨拶がありました。

左側が永田筑波大学長、右側が室伏学長

今回の連携協定は、ともに師範学校を創基とする大学であり、歴史的背景を有することから、幼児教育から大学院教育まで全ての世代の教育をシームレスにつなぎ、両大学のそれぞれの資源・強みを活かし、協働して人材育成を図ること、さらに、附属学校教育を含めた特色ある新たな教育連携への発展を目指したものです。

本調印式には、多数のメディア関係者が出席し、連携のメリット、今後の具体的な連携方策等についての質疑応答がありました。

ター発表・自主研究課題相談会を開催し、高校教員約20名を含む合計130名が参加しました。

従来の入試では、大学が受験生を一方的に選ぶだけのもの、受験生にとっては合否がすべて、という性格が強かったと思います。それに対して、この新型AO入試は、(誤解を怖れずに言えば)「合否にかかわらず」何かを得られる入試、参加した高校生に大学での学びとはどういうものであるかを垣間見てもらい、その上でぜひお茶大で学びたいと強く思ってもらえる入試にしたいと考えています。来年以降も、この一風変わった入試に意欲的な高校生がチャレンジしてくれることを願っています。

写真：写真部

お茶の水女子大学学報　第 250 号
▽発行日：2016 年 11 月 12 日
▽発　行：国立大学法人お茶の水女子大学
東京都文京区大塚 2-1-1（〒 112-8610）

ご意見・ご感想はこちらまで
企画戦略課広報企画担当
電 話：03-5978-5105
FAX：03-5978-5545
E-mail：info@cc.ocha.ac.jp
URL：http://www.ocha.ac.jp/

本誌、お茶の水女子大学学報「GAZETTE」は、
本学ホームページにも掲載していますので、どうぞご覧ください。

Copyright (C) 2016 Ochanomizu University. All Rights Reserved